高志

長岡高専同窓会報　第15号
発行日　平成18年２月

主な内容

会長挨拶 …… 1
名誉会長挨拶 …… 2
義援金募集の顛末 …… 3
中越地震における長岡高専の被災状況と復興状況の報告 …… 3, 4, 5
長岡高専の取り組み報告 …… 6, 7
電気電子システム工学科への名称変更について …… 7
ＯＢ通信 …… 8
褒章受章 …… 9
退職のことば …… 9, 10
退職・新任教員 …… 10
学科生及び専攻科生の進路状況 …… 11
同窓会長賞受賞者紹介 …… 11
体育大会入賞者 …… 12
会計報告 …… 13
予算報告・事業年表・編集後記他 …… 14

会長あいさつ

（高専土木１回）　**伊　藤　恒　彦**

新しい年を迎え、会員の皆様も気持ちも新たにますます御健勝のこことお慶び申し上げます。

皆様もすでにご承知のとおり、平成16年10月23日午後５時56分新潟県中越地方は最大震度７の「新潟県中越大震災」に見舞われました。この震災により、被災された多くの高志会会員の皆様には心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復興をお祈りしております。

学校の敷地内はいたる所に亀裂が入り斜面は崩壊し、校舎やグランドさらに寮までも大きな被害を受け、学生達の授業や生活に大きな影響を与えることとなりました。

同窓会としましても、学校がこの震災から一日も早く復興するために支援出来ることがないか検討の結果、会員の皆様方に義援金の募集をお願いしたところ、多くの皆様からご協力をいただき、10,000,000円を超える義援金を全額学校へ寄付いたしましたことを報告するとともに、ご寄付いただいた方々に対しまして深く感謝を申し上げます。

本年度（平成17年度）は通常であれば高志会総会を開催する予定でおりましたが、現在、校舎、寮の復興も最終段階となり今年の夏頃には完成すると聞いておりますので、その完成後に総会を開催し復興がなった学校を皆様にご覧いただければと考えており、本年度（平成17年度）は会報第15号の発行に替えさせていただきました。

さて、ようやくバブルの影響から抜け出し、景気も回復傾向にあると言われておりますが、産業全般的にはまだまだ厳しい状況下にあると考えています。このような状況の中、私たち技術者に対して求められる事柄も多様化しており、その事に対応する技術力そして新たな技術の創出が必要と言われております。

このような時代変化の中、高専卒業生の進路も、新たに創設された「専攻科」へ進む学生、さらに高度な知識習得のため大学に進学する学生が大半の状況であり、平成14年11月に民間企業等との共同研究等の推進を図ることを目的として設立された「地域共同テクノセンター」は学生の技術力向上や新たな技術の創出に向けた取り組みが行われており、今後とも高専卒業生が多くの分野で活躍されることと期待しております。

最後に、被災された会員の皆様と学校の一日も早い復興をお祈りするとともに、会員皆様のご活躍をご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

新３号館造成工事の様子（11月14日）

名誉会長あいさつ

震災復旧から更なる発展にむけて

長岡工業高等専門学校長
高　田　孝　次

高専の背後に連なる山々もうっすらと白い化粧をして、様々な動きがあった平成17年もいよいよ押し迫ったことを知らせておりますが、同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

さて、平成16年から17年にかけて、新潟県では水害、地震、豪雪と大きな自然災害が重なりました。本校では在校生のほぼ４人に一人の家庭が何らかの物理的被害（水害では床下浸水以上、震災では一部損壊以上）を受けたとの調査結果がでており、この数字からも大変な年であったことが明らかです。同窓生、保護者の皆様の中には今も災害復旧に立ち向かっておられる方々も多いと存じます。

平成16年10月23日の新潟県中越地震は本校の施設・設備に未曾有の損害をもたらし、その後、今日までの１年余りは正に被災対応の年となりました。幸い、各方面から賜りました強力なご支援ならびにご尽力のお陰により、３月には無事、卒業生・修了生を送り出し、４月には溌剌とした新入生を迎えることが出来ました。また、施設・設備の恒久復旧についても国の財政が厳しい中にあって手厚い予算処置が講じられました。現在、キャンパス全域で大規模な工事が急ピッチで進行中です。このため、実験の授業や卒業研究・特別研究等はプレハブ式仮設校舎や外部設備を借用して実施するなど、何かと不自由な状況下ですが、学生たちは工夫を凝らして勉学に真剣に取り組んでおります。11月に入ってからは補修・改修が完了した施設も出始めており、来年の春には新キャンパスのほぼ全容が姿を現す予定です。ただ、工事の規模が大きいことから、完全な竣工時期は新年度に食い込むことも止むを得ないと考えております。多くの困難や制約がある中で、学生・教職員一同、長岡高専の次の時代の礎を築くつもりで力を合わせて頑張っております。

これまで、同窓会からは貴重な義援金のご寄付を頂戴いたしました。この義援金はご趣旨に沿って学生の課外活動支援や被災記録写真集発行費用の一部などとして大切に活用させていただいております。また、多くの同窓生諸氏から直接・間接に暖かく力強いご支援やご助言を頂戴いたしました。勇気付けられるとともに、改めて同窓会の存在の大きさと同窓生諸氏のご活躍の広がりを実感した次第です。ここに、紙面をお借りして篤く御礼申し上げます。

平成16年度から、全国55の国立高専は独立行政法人国立高等専門学校機構の下に統一され、新たな歴史の一歩を踏み出しました。新組織は学生数５万人超を擁し年間予算が約900億円という国内最大級の国立高等技術教育機関となり、更なる発展が期待されております。同時に、行財政改革の流れの中で、各高専には一層の自助努力と社会の要請に応える成果が厳しく求められております。

このように、偶然のめぐり合せとは云え、長岡高専は今、ソフト、ハードの両面で大きく変貌しようとしております。私共はこの時期を、困難が伴うものの、本校の次なる発展に繋げる好機と捉えて諸機能の整備充実に全力を傾注する所存です。同窓生の皆様からの更なるご指導・ご鞭撻をお願いいたしますとともに、皆様方のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

（平成17年12月に寄稿いただきました）

❖ 義援金募集の顛末 ❖

平成16年度同窓会総務　荒木信夫（高専土木７回）

同窓会名簿の発行と発送を12月上旬に控え、印刷会社と頻繁に打ち合わせを始めた10月に地震は発生した。地震後、新潟市にある印刷会社に連絡したところ、同窓会名簿はスケジュールどおりの発行が可能とのことでフッと胸を撫で下ろした。ところが、高専校舎や敷地の被害が思いのほか甚大で、余震の続く10月28日には高専全域に避難勧告が発令された。全事務機能を長岡技科大に移動した後、担任として学生の安否確認、授業再開シナリオの作成、研究室の引越しと技科大での研究再開、11月に仙台と宮崎で開催される２つの学会の発表準備、土木学会第２次災害調査団等々の仕事に忙殺された。

11月の上旬にやはり震災で多忙を極めておられた伊藤会長とやっと連絡が取れ、同窓会として義援金を募り、学校の復旧・復興を支援することを決定した。名簿発行作業も大詰めを迎え、最終校正は学内理事に手分けをして頂いた。義援金の募集案内を準備中に、技科大の高専事務局に陣中見舞いされた数名の旧教員の方々から義援金の申し入れがあり、同窓会員に募る義援金を旧教員、技官の方々に拡大して募集させて頂くことにした。義援金募集案内は、12月20日に発送した同窓会名簿2,943冊に同封させていただき、それとは別に3,284通を会員と旧教員、旧技官の方々に郵送した。

11月下旬に長野高専の同窓会から義援金の申し出があり、12月下旬には早速30万円を振り込んで頂いた。募集案内の郵送後、多くの義援金が寄せられ、郵便局からの振り込みの確認証書が連日ぶ厚い束になって届くようになった。一口2,000円とさせて頂いたものの、多くがそれを超える金額であり、振り込み用紙には学校の復旧を応援するメッセージが書かれていた。長岡高専のすばらしさを一人の同窓生として再確認させられ、胸が熱くなった。３月中旬までに1,300名以上の方々から1,000万円を超える義援金が寄せられ、３月29日の卒業式後に伊藤会長より高田校長に1,000万円の義援金の目録を贈呈した。高田校長には義援金の使途として、震災による学校施設の被害に伴う校外課外活動経費の援助、課外活動センターの銅像（同窓会寄付）の修理、震災記録写真集の作成を希望した。

この度は多くの義援金を寄せて頂きありがとうございました。お金以上の長岡高専に寄せる思いを頂くことができました。本当にありがとうございました。

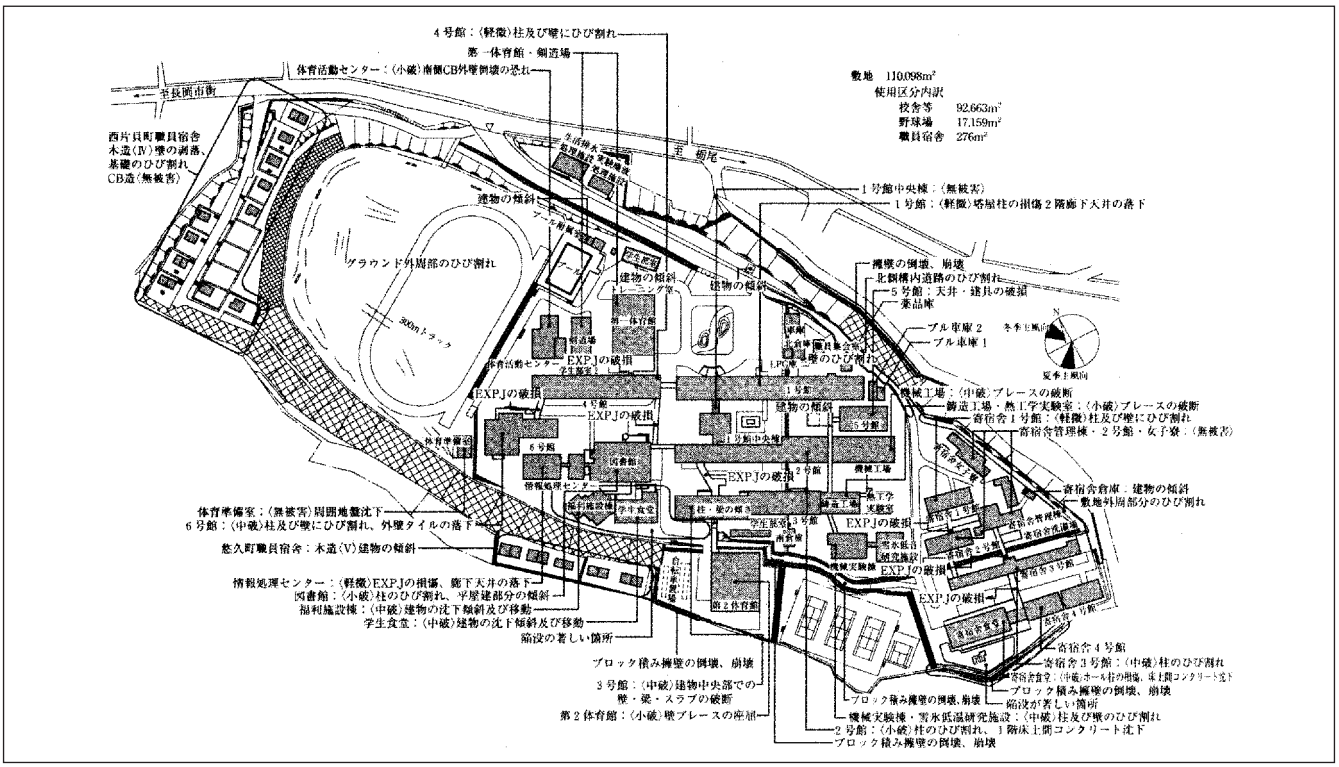
これまでの義援金額：10,315,930円
（会員、旧教職員：1,377名）

❖ 中越地震における長岡高専の被災状況と復興状況の報告 ❖

平成16年度同窓会会計　荒木秀明（高専電気28回）

2004年10月23日、午後５時56分に発生した新潟県中越地震で、長岡高専も施設・設備に大きな被害を受けました。これまで、本校の被災に対して同窓会の皆様からは暖かいご支援ならびにお励ましに、心から感謝申し上げます。現在、学校は応急対応の段階を経て恒久復旧に向け、被害を受けた校舎の改修や新築が深雪の中、急ピッチで行われております。このような学校の現状を写真にてお伝えいたします。被害の要因として校地の広範囲な部分が盛土で造成されていることが挙げられ、盛土部分に建つ建物に被害が集中しました。

本報告に掲載した図・写真の大半は、猪爪高見、土田勝範、柴木稔：「2005新潟中越地震後の長岡高専の被害調査」、技術室だより、第3号、pp. 5-9(2005)、および「被災記録写真集」長岡工業高等専門学校(2005)より引用させていただきました。



長岡高専の被害状況全体図

○ 被害状況

午後５時56分で停止した1号館正面玄関の大時計

グランド南側に生じた地割れ

校舎６号館のタイルの剥落

情報処理センターと福利施設棟の間に生じた地割れ

福利施設棟と学生食堂の傾斜

図書館の転倒した書棚

校舎３号館南側のブロックの崩壊

学生寮食堂周辺の陥没

学生寮食堂前ホールの柱のせん断破壊

正面玄関前の構内道路

大きく傾斜した学生寮への道路

校舎４号館３階の教員室

○ 復旧工事、仮設校舎（プレハブ）の様子

取り壊される校舎３号館

取り壊される学生寮（高志寮）３号館

解体される煙突

グラウンドの超軽量化工事のため、一面に敷き詰められた発泡ポリスチレン大型ブロック

構内のいたるところが工事中、手前：図書館、左側：校舎２号館、奥側：雪氷センター、右側：第２体育館

学生寮（高志寮３号館の新築工事）

プレハブ校舎（機械工学科研究室・実験棟）

プレハブ内の電気電子システム工学科研究室の様子

プレハブでの物質工学科、実験実習の様子

改修工事が完了し、一新された２号館内の様子

大雪の中進められる恒久復旧工事(1)

大雪の中進められる恒久復旧工事(2)

長岡高専の取り組み報告

JABEE受審への取り組み経緯について

JABEE対応小委員会委員長
粟　野　一　志

ここ数年来の懸案であった日本技術者教育認定機構（以下JABEEと略す）の審査（JABEE審査の実地審査）が10月18日にやっと終了しました。今後、分野別審査委員会、JABEE認定委員会での審査を経て平成18年の５月中旬頃にJABEE理事会から認定の可否が通知され、６月上旬には認定校が公表されることになっています。

本稿ではJABEE受審への今までの取り組み経緯を説明します。本校がJABEEに関する書類を公式に入手したのは、平成11年３月の技術者資格専門部会長で仙台電波高専の渡辺英夫校長からの「日本技術者教育認定制度(案)について」の資料である。しかしながら、当時、長岡高専には専攻科はなく、専攻科設置に向けてカリキュラム・学則・履修の手引きなどを検討している段階であった。平成12年度には専攻科が設置されJABEE審査の対象校になったことから、JABEEシンポジウムや認定試行校へ教員を派遣して本格的な情報収集が開始された。平成13年４月に将来計画委員会の下にJABEE対応小委員会が設置され、６月に小林和久教務主事の下で第１回の委員会が開催されて、JABEE受審に向けての精力的な活動が開始された。平成14年度には、本校を取り巻く教育環境の急速なる変化に対応するために、教育理念・目標を見直すとともに、カリキュラムの全面改訂が実施された。

その後、小林委員長から塩野委員長にバトンタッチされ、学習・教育目標の設定と開示、シラバスの改訂、証拠書類となる成績の保管方法の改善に務めるとともに、教員連絡ネットワークの構築、各種規程・申し合わせの整備が図られた。

平成16年度には、粟野が委員長となり、学科４年以上の全学生に個人別ファイル（シラバスファイル）を配布し、シラバス、答案用紙、達成度点検表などをファイルするように依頼した。また、専攻科生と学科４年生にプログラム履修登録確認書の提出を求めた。塩野教務主事と密接に連携をとりながら、教育プログラムを学生便覧、ホームページに掲載して開示し、教員会議において教員への周知を図った。自己点検書の作成については、項目毎に執筆者を決め、査読を行いながら自己点検書の体裁を整えていった。ところが、10月23日の中越地震により長期間にわたり委員会が中断したのち、12月９日に校長から「平成17年度にJABEE審査を受ける。準備を怠りなくするように。」との指示をうけ、資料の掘り出しと頭の整理を行い、１月４日には本校での授業再開にあわせて委員会の再会にこぎつけた。３月11～12日には工学（融合複合・新領域）関連分野の「プレビュー会議」に出席し、３月30日には校長・学科長に対する説明会を開催し、さらにはJABEE審査員の岡田清先生や認証評価委員の佐藤和秀先生からの意見聴取を経て、自己点検書の改訂を進めていった。４月20日にはJABEE受審の申請手続を行い、提出締め切り間際の７月28日には審査関係各方面に自己点検書本編（155頁）と引用・裏付資料編（874頁）の送付にこぎつけた。

10月３日の審査員との事前打ち合わせ会の後、約１週間で指摘事項についての補足説明資料を作成・提出した。実地審査では、教職員（16人）、学生（20人）、専攻科修了生（10人）から面談が予定されており、審査員から指定された条件の下で面談者の人選を行い、事前にガイダンスを行った。

実地審査の前日（16日）には15時から19時30分ま

で成績保管状況、実地閲覧資料の確認と調査、審査員の打ち合わせなどが行われていた。実地審査初日には校長挨拶に始まり、審査員・プログラム対応関係者の紹介、プログラム概要の説明、補足資料の説明と質疑応答に続いて、専攻科修了生・教職員・在学生との面談が行われた。二日目にはプログラム関係者との面談、教育施設・設備の視察などが行われ、夕方には審査長から審査結果(プログラム点検書(その２))が手渡された後、審査報告総括文が読み上げられた。改善すべき項目は多数あるものの、少人数教育の中で、教員と学生との親密良好な信頼関係の下で自発的な教育が実施されており、専攻科生による多数の学会発表がなされていることなどが高く評価された。今回の実地審査において、３月に修了した専攻科修了生にはわざわざ学校や仕事を休んでまでも面談に臨んでいただきました。また、その修了生との面談結果が特に好評であったために、審査結果にも好影響を与えていたことは審査報告書にも述べられている通りです。大変ありがたく、厚くお礼申しあげます。

最後に、同窓会の皆様には教育プログラムのアンケート調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。お礼申し上げます。受審に至るまでには歴代のJABEE委員長・委員の献身的な活動は言うに及ばず、多数の教職員のご協力とご支援があったことを付記して筆を置きます。

JABEE対応小委員会委員：

塩野計司(教務主事、Ci)、吉野正信(M)、中村奨(EE)、永井 睦(EC)、鈴木秋弘・菅原正義(MB)、宮腰和弘・荒木信夫(Ci)、佐藤公俊・岩瀬誠一(一般)、自見壽史(一般、16年度)、粟野一志(委員長、ＭＢ)。

審査結果報告に聴き入るJABEE対応小委員会のメンバー

審査報告総括文を読み上げる増田審査長

電気電子システム工学科への名称変更について

電気電子システム工学科　学科長　山﨑　誠（高専電気10回）

電気工学科は、2004(平成16)年４月入学生から「電気電子システム工学科」という名称に変わっています。これまで、電子・情報系の科目を取り込みながらカリキュラム改革を進めてきましたが、近年の情報技術の急速な発展をはじめとした産業技術の状況に積極的に対応すべく学科の名称を変更しました。電気電子工学専門分野の技術はもちろんのこと、情報技術を基本としてシステム的な構成力を有する技術者の教育を考えております。新しい学科名のもと、電気エネルギーの活用とシステム化、電子情報通信技術の先端的な部分もカバーし、教育に励んでおります。皆様からも、教育・研究についてご意見をいただければと思っております。

10年を振り返って

トッキ株式会社　見附工場
R&D装置技術開発室
（高専制御１回）
武 士 俣　　進

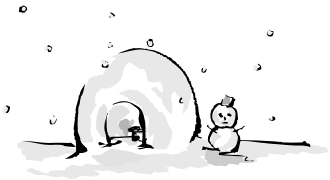
高専卒業から現在まで10年余り。もう10年？まだ10年？OB通信への投稿にはまだ若僧ではと思いつつこの機会を頂き自分を振り返ってみたい。

電子制御工学科の１期生として高専を卒業し長岡技大（大学院）へと進学した。大学では水泳部で青春を謳歌。研究室は高専時代より憧れの川谷研究室（現在は福井大学）へ配属となりその後の仕事の種となる制御工学や画像工学を学んだ。

初の就職は東京のベンチャー企業。あの頃は「一度は東京、それもベンチャー」という妙な青臭い願望があった。規模は20人程度で非常に伸び盛りの活気ある会社だった。画像処理ソフトの販売およびプログラム開発等に従事。少人数ゆえ営業から技術まで幅広くこなす必要があった。猛烈に忙しく毎日が終電の日々を数年続けた。今思えば無茶をしたが濃厚な時間であった。まだ半人前だが技術者の基礎はこの時代に築かれたのは間違いない。

子供もでき諸事情からＵターンで新潟へ戻り今の会社（トッキ株式会社）へ就職し２年余り。前職の経験を活かし画像処理の位置決め装置の開発やリアルタイム技術等の開発を行っている。技術に専念できる環境にあり新しい要素技術の探求に従事できるのは技術者として幸せな事である。今後も自己のスキルを確かな物にしていきたいと願う。

自分が数年後、数十年後にどうありたいか。それに対する今の仕事内容の位置付けは。それを常に客観的に意識する心構えが必要と感じている。物が自分の意図通りに動いた時の喜びは高専や大学時代と何ら変わりない。技術者でよかったと思う瞬間である。



「28年目の雑感」

新構造技術㈱
設計部部長
（高専土木６回）
登　石　清　隆

■近況

昭和53年卒業後、はや28年になる。良い仕事や上司を追いかけながら、新潟から離れないよう４回会社を変わり、橋梁の設計と維持補修のコンサルタントを続けている。橋は大きくても小さくても設計は楽しい。設計という作業は、たくさんの人をつなぎながら、白紙に自分の思う「かたち」が描けるので飽きることがない。

最近は若手の指導や管理業務、またやけに細かいことをいう発注者への対応、震災対応の待ったなし業務など、いささか疲労気味である。

■六期のみんな、元気ですか。

卒業後しばらくは毎年同級会だったけれど、妻子持ちが増え延期が続いている。年の頃合から要職に就き始め、仕事と家庭に充実した日々を送っていることと思う。体あっての人生。健康管理を怠ることなく再会に備えましょう。

■同窓のつながり

昭和60年頃、発注者が土木一期生の伊藤さんで、設計が私、施工が同じ六期の児玉君で、全員が高専ＯＢだった橋梁物件がある。あれから卒業生は増え、歩けば必ず同窓生につながり、高専土木パワーを感ずるようになってきた。仕事はネットワークの広さが大切である。

■大変な時代

社会に出て下働き（？）20年、これからおいしい（？）20年になるはずなのに建設関連は厳しい冬の時代である。にも関わらず技術者個人が評価される時代。どんなに忙しくても、どんなに仕事が少なくなっても「某一級建築士」にならないよう、倫理観をもって取り組みたい。

■おまけ

ゴルフをはじめて15年。上達はイマイチで、後発の佐藤國雄先生にも抜かれてしまった。というよりも佐藤先生の意気込みがすごいのである。同窓会コンペをやったらどれくらい集まるだろう、などと思いながら…。

褒章受章おめでとうございます

平成17年の秋の叙勲において、本校元教職員４名の方々が受章されました。

岡本祥一 名誉教授、第６代校長　　瑞宝中綬章（教育研究功労による受章）

平成２年４月から平成８年３月に退職されるまでの６年間校長を務められ、現在の５専門学科の体制を作られた。工業化学科を物質工学科に改組、土木工学科を環境都市工学科に改組するなど、組織改革を積極的に推進された。

池守隆夫 名誉教授　　瑞宝小綬章（教育功労による受章）

昭和38年４月長岡高専の前身である長岡工業短期大学に着任され、昭和63年３月に長岡高専を退職されるまでの25年間、電気工学科で教鞭をとられた。照明・色彩に関する研究業績は高く評価されている。

穂苅　久 名誉教授　　瑞宝小綬章（教育功労による受章）

昭和37年４月長岡工業短期大学着任後、平成元年３月に長岡高専を退職されるまでの27年間、機械工学科で教鞭をとられた。歯車や精密加工など機械加工・機械計測学の分野における教育研究に尽力された。

野田牧生　元長岡高専事務部長　　瑞宝双光章（文部行政事務功労による受章）

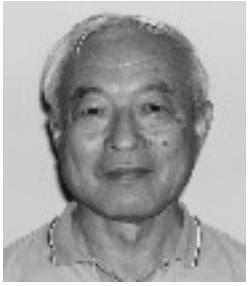
昭和62年４月から昭和63年９月まで、長岡高専の事務部長を務められた。図書館にAVコーナーを設置する、図書の貸出し・予約・検索などを行なうシステムを稼動させるなど、図書館サービスの向上に尽力された。

退職のことば（「学園だより」より転載）

雑　感

一般教育科　**山　口　　肇**

（平成16年３月）



発足して間もない長岡高専に勤務して？十年が瞬く間に過ぎ、時の流れの速さに改めて驚かされます。「十年一昔」という言葉は柔軟な頭脳を持つ学生には似合わず、「三年一昔」位かなと感じた勤め始めの頃でした。今では「一年一昔」と思われるほどに世の変化は速まっているようにも感じます。しかし、人材が育つという観点からすれば、人としての基本は精神的にも生物学的にもそんなに急激に進化する訳はなし、本質的な変化とは何かと問う間も必要な気がしてなりません。が、時の流れがそうだからと、極めて日本的な理由で変化に乗らぬは罪悪であると説得されてしまう。どんな技術も文明も、人としてのアイデンティティを認識し合ってこそ発展し栄えると理解させる役目も学校にありと思いつつも、漸く退官の時を迎えることとなりました。長岡高専の今後の発展を切にお祈りします。

地震を乗り越える長岡高専の未来に期待

電気電子システム工学科　**有　本　匡　男**

（平成17年３月）

長岡高専の前身である工業短期大学を卒業し、そのまま高専に残り、いつの間にか40数年が過ぎてしまいました。学生の頃はまだ校舎もなく、新潟大学工学部で、講義や実験を受けました。初めに１号館と４号館が建設されましたが、実験室も殆ど教室として使われました。その後、徐々に校舎や実験設備が整備されてきましたが、この度の地震で校舎や校地が被害を受け、技科大などを借りて講義をしていると、あの頃のことを思い出します。今後、新しい校舎群が建設され、数年後には、すばらしい学修・研究環境が創造されることを期待します。長い間、多くの皆様に大変お世話になりました。感謝いたします。

お詫びの次第

一般教育科（社会）　**島　雄　　元**
（平成17年３月）

平成元年に長岡高専で教えるようになって以来、昨年はじめて100点をつけることができた。４年の社会学でのテストである。４，５年の選択科目では、テストはずっと論述形式にこだわってきた。ノート、プリントなど、何でも持ち込み可であるが、箇条書き、矢印は禁止、ちゃんとした文章で説明せよ、というわけである。毎年優秀な学生さんが選択してくれたが、これは見事だという答は、一問、せいぜい二問止まりで、三問とも申し分のない答案には、残念ながら、お目にかかることがなかった。

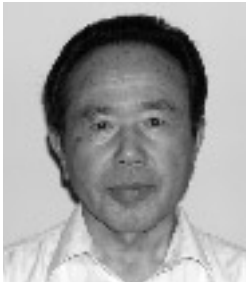
それが三問すべて完璧なので、これはすごい、いったい誰だろうと名前を見ると、なんとマレーシアからの留学生である。最近の留学生はたいそう優秀だと聞いてはいたが、数学や工学など、万人に共通な論理展開を構築する分野ならまだしも、ことは日本語の理解力と表現力である。早速、来てもらって、いろいろ尋ねたところ、中国語、マレー語、英語も不自由ない。日本語の勉強はマレーシアで一年、東京で一年やり、それだけで長岡高専の３年に編入。論文の書き方は教えられたことはないが、試験対策で自然と会得した。マレーシアの試験には必ず三種の問題が出されるからである。記号による穴埋め、グラフ・表の読み取り、そして論述である。

“Look East”と日本を目標にマレーシアが頑張っている間、日本の方は「ゆとり教育」で、子どもたちはゲームとケータイにはまり、本なぞ読まず、試験も「客観的な」記号選択問題ばかりである。気がついてみたら、日本語すら留学生に劣るようになってしまった、というわけである。

16年間、私なりに教育に努力したつもりであるが、全くの空回りであったことを認めざるを得ない。非力を深くお詫びするばかりである。立派な人材を輩出してきた長岡高専のよき伝統を、どうか皆の力で滔々たる大河へと甦らせて下さい。

確率の怖さ

一般教育科（物理）　**小　池　幸　雄**
（平成17年３月）



いつまでも若いつもりでいたのに、退職の年になりました。最後の年ぐらいのんびりさせて頂こうかと、不謹慎なことを考えていたら地震に見舞われ、夢は消え去った。勤め初めで新潟地震を、勤め終わりで中越地震を体験してしまった。それも何かの因果だろうか。一度大きな地震を体験したから、再び体験することはないと確信していたが、見事に外れた。確率は小さいが、０ではなかった。０に近い数値と０との違いを中越地震は教えてくれた。

地震といえば、小川前校長との思い出がある。雑談の中で前校長は本校が地震を引き起こす活断層の真上にあり、こんな危険地帯に学校を建設したことへの強い批判をなされた。それに対して、地震は数百年とか数千年という長い時間を経て起こるので、校舎建設への批判は現実性を欠く、というのが私の主張で、議論は平行線で終わった。

いま改めて考えてみると、前校長の主張は正しかった。確率が小さくとも起こる事がある。それが確率の怖さであり、現実との対応を難しくしている。活断層の上に教室（現６号館）を建設した前校長も悩んだことであろう。

最後に本校の実質的発展を切望し、終わります。

退職・新任教員

教員の異動（平成16年３月～平成18年１月）

退　職

H16. 3	一般教育科	教　授	山口　　肇
H17. 3	電気工学科	教　授	有本　匡男
H17. 3	一般教育科	教　授	小池　幸雄
H17. 3	一般教育科	教　授	島雄　　元
H17. 3	一般教育科	教　授	高橋美智子
H17. 3	一般教育科	助教授	若尾　彰子
H17. 3	一般教育科	助教授	近藤多香子

新　任

H16. 4	物質工学科	助　手	田崎　裕二
H16. 4	環境都市工学科	助　手	衛藤　俊彦
H17. 4	一般教育科	助教授	鈴木　　覚
H17. 4	一般教育科	助教授	新井　好司
H17. 4	一般教育科	講　師	茅野潤一郎
H17. 4	一般教育科	助　手	大湊　佳宏
H17. 4	電気電子システム工学科	助　手	竹内麻希子

学科生及び専攻科生の進路状況

平成15年度

【学　科】

学科・専攻名	卒業・修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機械工学科	43	35	4	3	1
電気工学科	46	34	5	5	2
電子制御工学科	39	31	3	2	3
物質工学科	39	26	5	3	5
環境都市工学科	48	25	9	8	6
計	215	151	26	21	17

【専攻科】

電子機械システム工学専攻	16	7	4	3	2
物質工学専攻	4	1	1	0	2
環境都市工学専攻	11	6	3	0	2
計	31	14	8	3	6

平成16年度

【学　科】

学科・専攻名	卒業・修了者数	進学者数	就職者数		その他
			県内	県外	
機械工学科	42	26	11	2	3
電気工学科	40	21	12	5	2
電子制御工学科	36	31	2	2	1
物質工学科	39	30	2	5	2
環境都市工学科	37	28	5	3	1
計	194	136	32	17	9

【専攻科】

電子機械システム工学専攻	19	12	6	1
物質工学専攻	6	9	4	0
環境都市工学専攻	9	5	1	3
計	34	19	11	4

同窓会長賞受賞者紹介

平成15年度受賞者

柔道部　大野　拓郎（機械）、永井　康之（環境）
高専全国大会団体３位

バレーボール部　青木　雄紀（機械）、今井　文彦（環境）、樺沢　友幸（環境）
高専地区大会４回優勝、全国大会５回出場

水泳部　山田　暢一（機械）　高専全国大会入賞多数

陸上部　櫻井　貴文（機械）　高専全国大会優勝

ロボティクス部　渡辺美奈子（制御）　全国高専ロボコン ロボコン大賞受賞メンバー

外国語愛好会　ハイダルS.M.（制御）　英語スピーチコンテスト スピーチ部門優勝

学生会新聞部　月岡　稔（環境）　新聞部での活動が顕著

平成16年度受賞者

山岳部　須藤　晴紀（電気）　ジュニアオリンピック入賞多数

柔道部　今井　康晴（制御）、五十嵐健太（環境）、大塚　健二（環境）
平成13年度、15年度高専全国大会団体戦３位

バレーボール部　高坂　一平（機械）、川津　信介（制御）、笠原　祐也（環境）、渡邊　慶輝（環境）
インターハイ・県ベスト８、高専全国大会連続出場

陸上競技部　山岸　克英（機械）、加藤　良（制御）
４×100mリレー平成16年度地区大会優勝、全国大会６位

電算機部　野澤　直城（電気）　全国高専プロコン連続出場、受賞多数

ロボティクス部　本多　良輔（機械）、長谷川　譲（制御）
平成16年度全国高専ロボコン地区大会アイデア賞、全国大会出場

インターアクト部　田中　和宏（機械）　多くのボランティアに参加、４，５年時部長

外国語愛好会　コエク・セン・チャイ（制御）　英語スピーチコンテスト 商工会議所会頭賞

体育大会入賞者

平成15年度　高専体育大会
関東信越地区体育大会（全国大会出場者）

◎陸上競技
　5000m優勝　櫻井　貴文
　三段跳び３位　山岸　克英
◎水泳
　100mバタフライ優勝　山田　暢一
　200mバタフライ優勝　山田　暢一
◎野球
　男子優勝
◎バレーボール
　男子優勝
◎ハンドボール
　男子優勝
◎テニス
　男子ダブルス優勝　大場　泰治
　　三宮　博司
◎柔道
　男子団体２位
　男子60kg級２位　大塚　健二
　　90kg級２位　大野　拓郎
　女子63kg級２位　金子　紅里
◎剣道
　男子個人３位　諏佐　俊輔

第38回全国高等専門学校体育大会
（上位入賞者）

◎陸上競技
　5000m２位　櫻井　貴文
◎水泳
　100mバタフライ４位　山田　暢一
◎柔道
　男子団体３位

平成16年度　高専体育大会
関東信越地区体育大会（全国大会出場者）

◎陸上競技
　４×100mリレー１位　坂田　歩
　　山岸　克英
　　中村　裕貴
　　原　一貴
　100m３位　坂田　歩
　200m２位　原　一貴
　200m３位　中村　裕貴
　400m３位　山崎　仁
　三段跳び２位　山岸　翔太
　円盤投げ３位　内山　政明
◎バスケットボール
　男子２位
◎柔道
　男子団体２位
　男子60kg級２位　大塚　健二
　女子63kg級２位　金子　紅里
◎剣道
　男子個人３位　諏佐　俊輔
◎テニス
　男子団体２位
　男子シングルス２位　佐々木次方
　女子シングルス２位　高橋　香
　女子ダブルス１位　高橋　香
　　吉村美貴子

第39回全国高等専門学校体育大会
（上位入賞者）

◎陸上競技
　４×100mリレー６位　坂田　歩
　　山岸　克英
　　中村　裕貴
　　原　一貴
◎テニス
　女子ダブルス３位　高橋　香
　　吉村美貴子

平成17年度　高専体育大会
関東信越地区体育大会（全国大会出場者）

◎陸上競技
　男子100m１位　原　一貴
　200m１位　原　一貴
　　３位　中村　裕貴
　110mハードル４位　上村　基成
　４×100mリレー１位　中村　裕貴
　　山崎　仁
　　高橋　昌史
　　原　一貴
　４×400mリレー２位　山崎　仁
　　高橋　昌史
　　原　一貴
　　坂田　歩
　女子800m２位　斉藤　弥生
◎柔道
　男子団体２位
　男子60kg級２位　大塚　健二
　女子63kg級２位　金子　紅里
◎テニス
　女子シングルス２位　高橋　香
　女子ダブルス１位　高橋　香
　　角田　智美
◎水泳
　男子100m自由形２位　本間　達朗
◎バスケットボール
　男子優勝
◎バレーボール
　男子４位

第40回全国高等専門学校体育大会
（上位入賞者）

◎柔道
　男子団体３位
　男子90kg級３位　増田　航
　女子52kg級３位　山崎　孝子
◎テニス
　女子ダブルス３位　高橋　香
　　角田　智美

平成15年度会計報告

収入の部

（単位：円）

摘　要	予　算	決　算	備　　考
前年度繰越金	26,052,950	26,052,950	
会　　費	3,330,000	3,315,000	15,000 × 221名
利　　息	21,000	19,224	大光銀行他
名簿代金	0	10,400	2,600 × 4冊
寄付金	0	44,000	3名
合　計	29,403,950	29,441,574	

支出の部

摘　要	予　算	決　算	備　　考
会報発行費	1,000,000	773,202	
終身会費返還費	0	150,000	15名
名簿発行費	0	1,230	
事務費	200,000	26,109	
旅費・日当	200,000	115,500	
会議費	100,000	31,525	
卒業証書ファイル	150,000	164,808	
通信費	30,000	10,890	
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	400,000	280,000	パート給与・役員手当
同窓会長賞	95,000	96,313	記念品代
予備費	350,000	133,694	香典・餞別他
合　計	2,645,000	1,783,271	
次年度繰越金	26,758,950	27,658,303	
累　計	29,403,950	29,441,574	

資産内訳

（単位：円）

普通預金（大光銀行中沢支店・会費）	4,876,253
普通預金（大光銀行中沢支店・寄付）	1,524,019
普通貯金（長岡栖吉郵便局）	77,291
定額預金（大光銀行中沢支店）	10,000,000
定期預金（北越銀行本店）	3,131,904
定期貯金（長岡中沢郵便局）	8,048,000
現金	836
合計	27,658,303

平成16年度会計報告

収入の部

（単位：円）

摘　要	予　算	決　算	備　　考
前年度繰越金	27,658,303	27,658,303	
会　　費	3,330,000	3,510,000	15,000 × 234名
利　　息	21,000	19,244	大光銀行他
名簿代金	0	0	
寄付金	0	0	
合　計	31,009,303	31,187,547	

支出の部

摘　要	予　算	決　算	備　　考
名簿刊行費	3,300,000	3,938,010	
終身会費返還費	0	280,000	28名
名簿発行費	0	600	
事務費	200,000	20,725	
旅費・日当	200,000	112,000	
会議費	100,000	43,171	
卒業証書ファイル	170,000	164,052	
通信費	30,000	17,840	
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	400,000	280,000	パート給与・役員手当
同窓会長賞	80,000	81,220	記念品代
予備費	350,000	111,845	香典・餞別他
合　計	4,950,000	5,049,463	
次年度繰越金	26,059,303	26,138,084	
累　計	31,009,303	31,187,547	

資産内訳

（単位：円）

普通預金（大光銀行中沢支店・会費）	3,339,713
普通預金（大光銀行中沢支店・寄付）	1,524,031
普通貯金（長岡栖吉郵便局）	77,294
定額預金（大光銀行中沢支店）	10,000,000
定期預金（北越銀行本店）	3,132,658
定期貯金（長岡中沢郵便局）	8,064,000
現金	388
合計	26,138,084

平成17年度予算

収入の部

（単位：円）

摘　要	予　算	備　　考
前年度繰越金	26,138,084	
会　　費	3,630,000	15,000×242名
利　　息	20,000	大光銀行他
合　計	29,788,084	

支出の部

摘　要	予　算	備　　考
総会補助費	600,000	
事務費	200,000	事務用品
旅費・日当	200,000	交通費・日当
会議費	100,000	会議会場費他
卒業証書ファイル	170,000	
通信費	30,000	
支部結成補助費	20,000	
支部補助費	100,000	
人件費	400,000	パート給与・役員手当
同窓会長賞	110,000	記念品代
予備費	320,000	学校補助を適宜行なうため
合　計	2,250,000	
次年度繰越金	27,538,084	
累　計	29,788,084	

事業年表（平成16、17、18年）

平成16年11月８日	第１回常任理事会 名簿発行の進捗状況と校正作業の分担 中越震災に対する義援金の募集
11月20日	義援金募集案内の作成
12月20、22日	名簿・義援金募集案内の送付
平成17年１月26日	第２回常任理事会 名簿発行の報告と反省点 義援金の募集状況と学校へのリクエスト
２月25日	第３回常任理事会 同窓会長賞の選考について 義援金の学校へのリクエストについて
３月16日	平成16年度 理事総会
６月30日	第１回常任理事会 会員名簿の今後の販売について 総会の開催について
12月	同窓会報原稿募集、編集作業
平成18年１月30日	第２回常任理事会
２月	同窓会報発行（予定） 第３回常任理事会（予定）
３月	定期理事総会（予定）

高志会の活動紹介

高志会は、母校長岡高専の発展と、卒業生である会員相互の親睦のために活動しています。主なものは、(1)高志会総会、(2)同窓会報の発行、(3)同窓会名簿の発行で、毎年１件ずつ３年のインターバルで実施しています。本年度は総会開催の予定でしたが、中越地震の影響から、順番を入れ替え、会報の発行に変更しました。

平成16年10月の中越地震におきましては、震災に対する義援金を募集しました。大変多くの方からお寄せいただき厚く御礼申しあげます。義援金は、全額学校に寄付いたしました。また、平成18年１月21日に長岡高専が主管校となって開催された第11回高専シンポジウムへの援助をさせていただきました。

この他、毎年卒業式後に行なわれる表彰授与式において、在校時の課外活動で顕著な成績を収めた卒業生に対して、同窓会長賞を授与しています。また、卒業生全員に授与される卒業証書のカバーなどの援助も継続して行なっています。

これらの同窓会の活動や各種の情報は、長岡高専同窓会のホームページ（URL： http://www.nagaoka-ct.ac.jp/do/）に掲載しております。こちらもぜひ御覧いただければと存じます。

来年度には復旧工事も終わります。真新しく生まれ変わった校舎を会場に、高志会総会を開催する予定でおります。新校舎、新キャンパスの見学にぜひお越しください。

（事務局長　高専機械１回　佐藤國雄）

個人情報の取り扱いについて

同窓会高志会が収集した個人情報は、同窓会名簿の作成及び会報などをお送りするための宛名出力の付帯業務に使用することを目的としており、それ以外には利用いたしません。

収集した個人情報について、委託先も含め、機密保持には万全を尽くします。

自己情報を照会したい場合は、同窓会高志会までご連絡ください。本人であることが確認できた場合に限り、開示いたします。その結果、訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

編集後記

総会の予定が、会報発行に変更になり、バタバタと準備を進めることとなりましたが、何とか発行にこぎつけることができ、ほっとしています。今年度は授業と並行して、校舎の改修・新築工事が行なわれ、騒々しい毎日となりました。この冬は、大雪で寒い冬になりましたが、雪が融け春が来れば、綺麗な校舎になり、本校の教育・研究環境にも春が訪れる、春が待ち遠しい今日この頃です。

（総務　高専電気25回　竹部啓輔）

長岡工業高等専門学校同窓会高志会

〒940-8532 長岡市西片貝町888
長岡工業高等専門学校内
電話：0258(32)6435（代表）
電子メール：kosikai@nagaoka-ct.ac.jp